

だい かい にほんご
第9回アンコールワット日本語コンクール

ろうどくぶもん ろうどくげきぶもん せんこうかだい
朗読部門 朗読劇部門 選考課題

《きつねと つる パート1》

ある ひ、きつねが つるを しょくじに よびました。

「こんにちは、きつねさん。おじゃまします。」

「やあ、つるさん。まって いましたよ。どうぞ こちらへ。」

「ああ、おいしそうな においが しますね。」

つるは おなかが ぐうぐう になって います。

きつねは つるを しょくどうに あんないしました。

ごちそうは ひらべったい おさらに いれた スープだけでした。

「さあ、どうぞ。めしあがれ。」

きつねは にやにやしな がら そう いうと、したを ぴちゃぴちゃ
いわせながら スープを のみました。

コツコツコツ、コツコツコツ、コツコツコツ...

つるは ながい くちばしで、さらをつつつく ばかりです。

いくら がんばっても スープは ほとんど のめません。

それを みて、きつねが いいました。

「おや、まあ。スープは おきらいですか。」

つるは にがわらいを しながら、

「いや、じつは さっき おやつを たべた ばかりなので、

おなかが いっぱいなんです。きょうは ごちそうさまでした。」

と 言って、すごすごと かえって いました。

《きつねと つる パート2》

しばらく たって、こんどは つるが きつねを ランチに
しょうたいしました。

「こんにちは、つるさん。おまねき ありがとう。」

「やあ、きつねさん。こちらこそ この あいだは ありがとう。」

うちに はいると、いい においが して きました。

「きょうは きつねさんの ために、よあけまえに おきて、

とくべつな ごちそうを つくったんですよ。」

「それは それは、たのしみですね。」

きつねは したなめずりを しながら いいました。

「さあ、さあ、うえは けしきが いいですよ。あちらへ どうぞ。」

おくじょうの テーブルには ほそながい つぼが ふたつ
ならべて ありました。

「さあ、どうぞ。めしあがれ。」

つるは ながい くちばしを つぼに いれて、おいしそうに
おしゃおしゃ ごちそうを たべました。

きつねは つぼの まわりを なめる ばかりです。つぼを
さかさに して みても、なかの ごちそうは でて きません。

それを みて、つるが いいました。

「おや、きつねさん。この ごちそうは おきらいですか。」

「あ、いや、この つぼが あんまり きれいなので、うらまで
よく みようと おもって。」

「ほしければ、あげますよ。しょくじに つかって ください。」

つるは からから わらいながら いいました。